

# 令和3年度 林業普及週間現地情報 (11/15～11/19)

## 森林管理課

### センダン及びテリハボク造林地調査

11月17日 (水)

令和3年11月16日(火)～17日(水)、沖縄県八重山農林水産振興センター職員は、森林資源研究センター職員と平得県営林のセンダン及び石垣市有林のテリハボクの毎木調査を行った。

平得県営林のセンダンは令和2年12月に植栽し、令和3年6月に施肥下刈り、10月に下刈りを行っている。植栽後約1年の平均苗高は170cmで、最も成長のよい個体で359cmであった。また、センダンは通直に仕立てるため、芽かき及び枝打ちを行う必要があることから、調査プロットの設定で芽かき・枝打ち実施区と対照区(未実施)に分け、芽かき及び枝打ちの成長への影響及び効果の検証を行う予定である。

石垣市有林のテリハボクは平成5年に植栽され、翌年から8年間の下刈り、令和元年に保育間伐を実施している。テリハボク林の密度管理基準を作成するため、15m×15mのプロットを設置し、胸高直径、樹高及び樹冠幅の調査を行った。

センダンは早生樹として、全国的にも注目度が高く、八重山地域のアクションプログラムの取り組み樹種の一つであり、テリハボクは、石垣島内で造林実績も多く、木材としての価値も高い。今後も継続して調査を行い、研究結果の普及指導に取り組む。

表 調査結果 (センダン)

調査日	2021/2/22			2021/11/16				
	試験区	生存数	生存数	植栽時 平均苗高 (cm)	平均苗高 (cm)	平均生長量 (cm)	枝打ち 対象 個体数	枝打ち 実施 個体数
芽かき、枝打ち区		46	43	54	174	119	14	14
対照区		47	47	50	167	117	12	0
小計		93	90	52	170	118	26	14



写真1 センダン造林地  
(最も成長のよい個体No101)



写真2 テリハボク造林地